

関孝和三百年祭記念事業趣意書

関孝和先生は算聖と称される日本が世界に誇るべき江戸時代の数学者（和算家）で、宝永5年10月24日（西暦1708年12月5日）に物故せられました。

二百年忌に相当する明治40年（西暦1907年）には、東京数学物理学会（日本数学会と日本物理学会の前身）が関流算法七部書の出版、年会における式典、本朝数学通俗講談会の開催、およびその講演集の発行、という記念事業を行いました。

昭和33年（西暦1958年）には、二百五十年祭として、日本数学会は記念学術講演会を開催し、また、お墓が東京都新宿区弁天町の浄輪寺にありますので東京都教育委員会、新宿区教育委員会等とともに墓前祭・講演会・記念事業（東京都史跡指定等）を行っております。それを機会に算友会が発足し、それが発展解消して昭和37年（西暦1962年）には日本数学史学会が組織されました。

西暦2007年12月5日は三百年忌にあたり、西暦2008年は三百年祭を開催すべき年となります。日本数学史学会運営委員会は昨年度より、その準備を行うべく記念事業実行準備委員会を組織し、また、日本数学会も記念事業検討WGを立ち上げました。本年3月25日開催の記念事業実行準備委員会で以後は実行委員会に移行することとし、和算に関心をもつ各方面の方々に第1回記念事業実行委員会を本年5月7日に開催することを通知しました。当日、全国から参集しました40名ほどと賛同の返事を出した者をもって実行委員会は発足し、記念すべき年に、次のような記念事業を行うこととなりました。

1. 博物館等における展示会
2. 国際研究集会
3. 講演会
4. その他の関孝和先生顕彰事業

このような記念事業により、関孝和先生の数学およびその後の発展を国際的に専門家および広く一般の人々に紹介すると共に、日本社会において江戸時代のように数学力を尊びその向上とその方面の人材育成を図りたいと考えております。なお、これらの記念事業を行うためには財政的裏付けも必要であり、競争的資金等の獲得にもつとめますが、募金活動も行うことになりました。

本年10月16日までに学会等団体および個人で本趣旨にご賛同くださり、募金活動の発起人となってくださる方を募ることにいたしました。格別のご高配をいただきますようお願い申し上げます。

平成18年（西暦2006年）9月吉日

関孝和三百年祭記念事業実行委員会日本数学史学会代表 佐藤 健一
関孝和三百年祭記念事業実行委員会日本数学会代表 真島 秀行